

文学部 学部基幹科目（2019年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始メスター	1	2	3	4	5	科目概要
			社会のさまざまな事象について、建学の理念によって培われた倫理観に基づいて判断を下し、かつ修得した知識を活用して社会的責任を果たすことができる	日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけている	日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、テーマを設定して自らの見解をまとめることができる	選択した専門領域以外の関連領域について、基礎的な知識を身につけている	国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる一定の知識と能力を身につけている	
学部基幹	中国語と中国文化	1				◎		中国語は多くの学生にとって身近な言語でありながらも未習の言語であるが、言語として中国語を知らなければ足りるものではなく、その言語の生み出した文化の学習も不可欠である。「中国語と中国文化」は、中国文化に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、中国語を日本語・英語と比較しつつ、その文字、発音、文法、語彙等の面から解説し、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を学習する。中国文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。
	英語と英米文化	1				◎		英語は多くの学生にとって中学校および高等学校で既習の言語であるが、言語として英語を知らなければ足りるものではなく、その言語の生み出した文化の学習も不可欠である。「英語と英米文化」は、英米文化に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、既習の知識と比較しつつ、中・高では学ばない英語の知識について文字、発音、文法、語彙、表現等の面から解説し、英語の新しい側面を学習する。英米文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。
	世界の言語と文化（朝鮮語）	1				◎		地球上にはさまざまな言語によって生み出されたさまざまな文化があり、言語として英語や中国語のみを知られば足りるものではない。「世界の言語と文化」は、世界の文化の多様性に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、朝鮮語を日本語と比較しつつ、その文字、発音、文法、語彙等の面から解説し、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を学習する。朝鮮語圏文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。
	世界の言語と文化（ベトナム語）	1				◎		地球上にはさまざまな言語によって生み出されたさまざまな文化があり、言語として英語や中国語のみを知られば足りるものではない。「世界の言語と文化」は、世界の文化の多様性に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、ベトナム語を日本語と比較しつつ、その文字、発音、文法、語彙等の面から解説し、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を学習する。ベトナム語圏文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVD/ビデオに基づき紹介する。
	世界の言語と文化（フランス語）	1				◎		地球上にはさまざまな言語によって生み出されたさまざまな文化があり、言語として英語や中国語のみを知られば足りるものではない。「世界の言語と文化」は、世界の文化の多様性に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、フランス語を英語と比較しつつ、その文字、発音、文法、語彙等の面から解説し、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を学習する。フランス語圏文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。
	世界の言語と文化（ドイツ語）	1				◎		地球上にはさまざまな言語によって生み出されたさまざまな文化があり、言語として英語や中国語のみを知られば足りるものではない。「世界の言語と文化」は、世界の文化の多様性に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、ドイツ語を英語と比較しつつ、その文字、発音、文法、語彙等の面から解説し、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を学習する。ドイツ語圏文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。

中国学科 専門科目（2019年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることが出来る	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科基礎	中国学科入門ゼミ	1	◎	○				中国学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索方法、レジュメの作成方法）を修得する。
	中国学科基礎ゼミ	2	○	◎				中国学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索方法、読解及び内容の要約のしかた、レジュメやレポートの作成方法）を修得する。
	中国語聴解 1	3	○	◎				中国語を1年間学習した学生を対象に、それまでに学習した初歩的な語彙や短文を聴き取り、理解する能力を養っていく。 事前・事後学習として聞き取り練習を行うことを課題とし、事前学習した内容をしっかりマスターできるように、講義内で中国語音の確認に加え、課題の内容を解説する。そして講義を踏まえた事後学習を課題とすることで、総合的なリスニング能力（中国語音の聞き分けと内容理解）を養成する。
	中国語聴解 2	4	○	◎				「中国語聴解1」の学習成果を踏まえ、中国語検定3級レベルの簡単な文章を聴き取り、その内容を理解することのできるリスニング能力を養成する。 講義では「中国語聴解1」と同様に事前・事後学習を課し、講義内では、事前学習で聴き取り練習を行った文章について、中国語音の確認・内容の解説を行い、リスニング能力の向上を目指す。その上で、事前学習と講義で学習した内容が定着するよう、事後学習を課し、より総合的なリスニング能力の養成・向上に努める。
	中国語入門 1	1	◎	○				中国語学習の入門時に必要なスキルと基本的な知識を習得することを目的に、中国語の基礎固めを行う。中国語の発音や簡単な会話練習を行うなかで、たんなる語学学習に止まらず、言葉のうらにある社会的・文化的側面も学習する。
	中国語入門 2	1	◎	○				「中国語入門1」の学習を踏まえ、中国語学習を通して中国語のスキルアップをはかる。それと同時に、中国語の発音や簡単な会話練習を行うなかで、たんなる語学学習に止まらず、言葉のうらにある社会的・文化的側面も学習する。
	中国語概論 1	2	◎					中国語とはどのような言語なのか、音声・音韻・文字など、種々の角度から考察することにより、中国語の特徴について基礎的な知識を得る。
	中国語概論 2	2	◎					中国語とはどのような言語なのか、語法・語彙・方言・中国語の歴史など、種々の角度から考察することにより、中国語の特徴について基礎的な知識を得る。
	中国語基礎演習 1	3	○	◎				中国語を1年間学習した学生を対象に、その学習の成果のうえに立ち、基礎的な構文の復習から始め、段階的に難易度を上げた文章に挑戦していく。 講義で扱う内容は、たんに中国語の文章を読むということだけではなく、中国語文を通して中国語の構造や、背景にある社会・歴史・文化などへの理解を促すような文献を用いる。 この科目では、一文ずつ丁寧に読み解いていくことで、中国の社会・歴史・文化などに対する理解も促しつつ、学生の「思考力」と「読解力」の養成を行う。
	中国語基礎演習 2	4	○	◎				「中国語基礎演習1」の学習成果を踏まえ、基礎的な文型より難易度がやや高い構造の文章を含む文献を用い、「中国語基礎演習1」と同様に文章を一つ一つ丁寧に読み込んでいく。たんに文章を理解するだけではなく、その文章の構造やその背景にある社会・歴史・文化にも言及することで、より深いレベルの内容理解を促していく。その読解作業を通して、文献が示す内容を理解するだけではなく、社会・文化・歴史的背景にまで思考を促すことで、学生の「思考力」の養成も行う。
	中国思想史 1	3		◎				中国思想の流れを把握するために、思想内容の理解に努める。 古代から秦の天下統一までの思想が中心になる。 具体的には、中国思想の一般的特質、天の思想をはじめとして、孔子、孟子、荀子、墨子、老子、荘子、韓非子の思想などを取りあげる。また、それ以外の思想についても必要に応じて言及する。 その際、その思想を生み出した社会的・文化的背景にも注意を払う。 思想内容の概説にとどまらず、時に原文にも当たって理解をたしかなものにする。
	中国思想史 2	4		◎				中国思想の流れを把握するために、思想内容の理解に努める。 漢代以降、清朝までの思想を扱う。 主要な項目としては、漢代の諸思想、経学、六朝のいわゆる竹林の七賢の思想、六朝から本格的にはじまる仏教・道教の思想、唐代の宗派仏教、浄土教と禅宗、宋代の新儒学、明代の陽明学、清朝の考証学、など。それ以外の思想についても必要に応じて言及する。 その際、その思想を生み出した社会的・文化的背景にも注意を払う。 思想内容の概説にとどまらず、時に原文にも当たって理解をたしかなものにする。 内容的には「中国思想史1」に続くものとする。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科基礎	中国学科発展ゼミ	3	◎	○				本科目は、専門学修を展開するための土台となる「基礎的中国語力」と「基礎的研究推進力」を、着実に形成することを目的とする。「基礎的中国語力」については、中級中国語用のテキストを使用し、一年生の時に学んだ初級中国語の内容を確認しつつ、応用練習を積み重ねる形で、次の段階へとスムーズに移行するための語学的足場を固める。「基礎的研究推進力」については、中国史をコンパクトに紹介したサブテキストや視聴覚媒体等、各種資料を活用しつつ、中国学の基本事項（歴史・地理・社会・文化等）とその調査方法について、具体的かつ実践的に紹介することを通じて、専門分野の研究への導入的役割を担う。
	中国古典文学史 1	3		◎				中国の古典文学は、清朝の末期まで（20世紀初頭）を下限とすると、詩経以来、二千数百年の歴史を有し、韻文、散文のさまざまなジャンルにわたっている。この科目では、韻文（詩）と散文（小説・戯曲）を二つの柱として、古代から中世までの文学を取り上げる。主な項目として、韻文は詩経（四言詩）、楚辞（賦）、五言詩、楽府体、近体詩など、小説は、六朝志怪小説、唐代傳奇小説および唐代の俗講と変文などが挙げられる。なお、散文は小説以外にも、書簡文、序文、碑文、墓誌銘・祭文などさまざまなスタイルでさまざまな題材を扱っているため、必要に応じてそれらを取り上げることもなる。この講義では、古代から中世までの中国古典文学の基本的な流れを把握し、現代へとつながる中国文学および中国文化の流れについて、おおまかで基本的な理解を形成することを目指す。
	中国古典文学史 2	4		◎				中国の古典文学は、清朝の末期まで（20世紀初頭）を下限とすると、詩経以来、二千数百年の歴史を有し、韻文、散文のさまざまなジャンルにわたっている。この科目では、中国の近世である宋代から清代までの文学を取り上げる。詩はこの時期においても、国家と社会の指導層である士大夫たちの必須の教養であることは変わらず、文学史の流れにおける主流であり続け、また士大夫の書く散文は古文が主流となった。一方、士大夫の書く詩や文は文語を用いるが、この時期には口語（白話）で書かれた小説や戯曲がとくに発達する。したがって、授業においては、主として近世士大夫の伝統的詩文（例えば歐陽脩、蘇軾、王安石、陸游など）と白話小説（例えば水滸伝、三国志演義など）を取り上げる。中国の近現代へと直接つながる近世の文学の流れを把握すると同時に、中国文学および中国文化の流れについて、おおまかで基本的な理解を形成することを目指す。
	中国現代文学史 1	3		◎				20世紀前半の中国文学を扱う。伝統的な文学観では小説の地位は高くなかったが、清末にはジャーナリズムの隆盛を背景に小説が流行した。その後、五四新文化運動は民国にふさわしい文化・思想の確立を目指して、儒教批判と西欧文化の紹介を進めた。文学方面では白話（口語）こそが正宗であるとする主張がなされた。これ以後、口語による文学が定着していく。1920年代はじめには多くの文学結社が成立した。代表的な結社として文学研究会や創造社がある。1920年代後半から1930年代半ばにかけて文学論争とともに文学創作も盛んで、多くの作家が登場してきた。1937年7月の日中全面戦争突入後は、日本軍占領区、国民党統治区、共産党支配区それぞれで文学活動が行われていく。以上の事柄について、基礎的な理解を促す。
	中国現代文学史 2	4		◎				1949年以降の中国の文学を扱う。1949年7月に開催された第一次文代会で新中国の文芸方針が決定された。文学者の組織化が確立されたが、文芸界の組織化は政治と不可分のものとなり、思想闘争が展開される。それは批判運動として、1950年代には、蕭也牧批判、映画「武訓伝」批判、胡風批判、反右派闘争等が展開された。文革時期は文学活動は全般に成果が少なく、革命模範劇が中心であった。文革終結後の文学は新時期文学と称される。傷痕文学や反思文学の後、文学の多様化が追求される。以上の事柄について、基礎的な理解を促す。
	中国近現代史	3		◎				中国語や中国に関わる学問を学ぶ際に、必要となるのが中国近現代史に関する認識と理解である。この講義は、中国について専門的に学習する学生、なかでも中国長春に位置する吉林大学に留学する学生にとって必要な、中国近現代史への理解を促進することを目的とする。講義内容は、清末から中華人民共和国までの中国近現代史を概観するとともに、長春（新京）を首都とした満州国に関わる歴史など、中国近現代史のなかで重要と思われるトピックを取り上げ、その歴史潮流への理解を促す。また中国近現代史を通して、近現代における日中関係についても思考を促していく。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科基礎	漢語聴説実践	4		◎				この科目は、中国語の初級をひととおり終えた学生向けの講義であり、やや難易度の高い中国語表現を身につけることを目標とする。基本的には、中国学科に所属する2年生が受講対象者となる。受講生は既に初級中国語の学習を終え、中国語の主な文法項目を理解し、一定量の語彙も習得したと考える。このような学習状況に鑑み、本科目では、初級で習得した知識を最大限に実践できるように、中国語の「聴説」、すなわちリスニング能力と会話能力を中心に訓練を重ねる。授業では、現代中国社会の最新事情を反映するコンテンツを用いて、関連する話題の新出語彙の発音を徹底的に練習し、やや難易度の高い文(複文)の構造を理解し、その内容を聞き取る練習を行う。さらに、関連する話題に関する内容の要約及び口頭発表や議論も行う。
	現代名作導読	4	○	◎				現代中国文学の中から名作と呼ばれる作品数点を選び、授業のなかで丁寧に読むことを通じて、文学に親しみ、その背景にある社会や文化、思想等について、初歩的な理解を得ることを目標とする。それと同時に、文章読解に取り組む過程で文学表現の多様性に触れ、近現代小説の基本的な読み方について理解することを目指す。具体的には3～4篇の中短編小説に的をしぼり、それらを部分的に精読し、日本語訳と注釈を作成したうえで、読んだ箇所を鑑賞するという方式を進める。中国語の原文と、自らが作成した日本語訳を対照しつつ、作品の背景や登場人物の心情をさぐり、作者の主張や作品の特徴、時代の思潮について考えていく。
	古典名作導読	4		◎				この科目では、中国の古典文学史において名作とされる作品を取り上げて、古典文学作品の初歩的読解力を養成すると同時に、中国の古典文学のさまざまなスタイルに慣れるのを目標の一つとする。また、それと同時に、各作品の作者の生涯や時代背景および作品の作られた背景などにも目配りして、中国の歴史の流れにおいて個々の作品をとらえる視点を養う。 中国古典文学史における名作といっても、さまざまなジャンルの作品があるので、授業においては、伝統的な詩や他の韻文形式である詞・曲の名作、伝統的な士大夫の散文の名作、文語小説や口語(白話)小説の名作など、さまざまな作品が取り上げられることになるだろう。個々の作品を通して、中国の歴史の流れの中における中国人の思考様式などに対する理解を深めることも目指したい。
	中国文学研究基礎1	3		◎				この科目は、2、3年次を経て、4年次における卒業論文・卒業研究を完成させるための基礎を形成する学習の一環として、文献読解力のさらなる養成と研究課題の発見方法や研究方法に関する初歩的知識を獲得することを目指す。 授業では、近現代を対象として、中国の近現代人の書いた詩や小説等の散文(いずれも文言による作品も含む)を通して中国語文献の読解力の向上を目指すと同時に、近現代の中国語そのものの特徴を理解する基礎を形成することも目指す。 中国の近現代は、政治的社会的変動の激しい時代であり、その言語と文学は政治や社会から切り離すことのできないものである。このことは中国の近現代を考えるに際して十分留意しなければならない。したがって、この授業は取り上げられた文献の個別的背景のみならず、時代的背景にも視野を広げる訓練にもなるはずである。その際には、さまざまな参考書(工具書)を紹介して理解を助けるとともに、先行する研究状況の把握方法についても言及することになる。
	中国文学研究基礎2	3	○	◎				この科目は、2、3年次を経て、4年次における卒業論文・卒業研究を完成させるための基礎を形成する学習の一環として、文献読解力のさらなる養成と研究課題の発見方法や研究方法に関する初歩的知識を獲得することを目指す。 授業では、古典文学を対象として、伝統的詩文、小説、戯曲、民間文学などの中国古典文学分野のさまざまな文献の読解力の向上を目指すと同時に、それに用いられている文言や白話という言語自体の特徴を理解する基礎を形成することをも目指す。 また、中国の古典文学は作品の歴史的背景や時代背景とかなり強く結びつけられているので、この授業は各作品の書かれた個人的背景のみならず、歴史的背景にも視野を広げる訓練ともなるはずである。その際には、さまざまな参考書(工具書)を紹介して理解を助けるとともに、先行する研究状況の把握方法についても言及することになる。
中国思想研究基礎1	4		◎				中国思想を研究する基礎をかためる。必要知識を整理するとともに、実際に文献に当たって思想内容の理解に努め、かつ語法・語彙についても注意を払い、将来の本格的な思想文献読解に備える。 この授業では主として基本的な思想文献を中心に扱う。 その場合やはり大切なのは、文章読解能力の育成である。辞典工具書類を使いこなしつつ、原文を正確に読解することを通して、思想理解の糸口をつかむことを目指す。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科基礎	中国思想研究基礎2	4	○	◎				中国思想を研究する基礎をかためる。必要知識を整理するとともに、実際に文献に当たって思想内容の理解に努め、かつ語法・語彙についても注意を払い、将来の本格的な思想文献読解に備える。中国思想の研究は、主として思想文献が中心になるけれども、ときには歴史・文学の文献を渉猟しなければならない場合も想定される。その場合やはり大切なのは、文章読解能力の育成である。辞典工具書類を使いこなしつつ、原文を正確に読解することを通して、思想理解の糸口をつかむことを目指す。
	中国語作文	4	○	△	◎			中国語現地研修A（吉林大学）で履修する科目（漢語写作）の単位互換用の科目である。中国語を1年半学習した学生が運用できるレベルの語彙と文法を用いて、中国語で基礎的な文章を作る能力を養成する。テーマにそった内容や自分で表現したい文章を中国語で作文していくなかで、思考力と表現力を養っていく。また辞書を引くことを通して、運用できる語彙を増やす。それと同時に、辞書上の用例などを通して、より自然な表現ができるようにしていく。
	HSK演習（基礎）	4	◎	○				この科目は、HSK（漢語水平考試）受験対策の授業であり、HSK筆記3級に合格できる総合力を身につけることを目標とする。この授業では、まず所定のテキストを用い、初級中国語の内容を確認し、さらに相応レベルの音声や文章資料及びHSK模擬問題を使用して学習成果を確認する。HSK受験者にとっては、まずHSKの出題形式や傾向を把握する必要がある。そのうえで、HSKの出題形式に慣れることが重要である。そのため、規定時間内に大量に問題を解く練習は欠くことができない。その後、各自の弱点を随時見つけ出し改善していくことは、実際の受験には役に立つ。本科目では、上記のような作業（訓練と改善）を繰り返し行う。
	中国語現地研修A	4	○	○	◎			中国吉林大学での現地研修に参加するために必要な事前研修を行う。本科目では現地研修に赴く前に4～5回の事前研修を行い、現地研修において必要な諸手続きや歴史・文化・社会といった現地生活に必要な知識を獲得し、中国語および中国に対する理解力を高め、中国語運用能力の向上をはかる。それと同時に、現地研修でトラブルに巻き込まれたり、起こしたりしないために、中国現地の政治情勢や吉林大学周辺の環境を学び、日常生活に必要な知識を身につけていく。
学科専攻 コミュニケーション系	漢語会話演習（HSK5級）1	5	○	△		◎		この科目は、HSK（漢語水平考試）筆記5級合格に相当するレベルの上級中国語会話力を身につけることを目標とする。HSK筆記5級は、「2500語程度の常用単語を習得している者を対象」としている。基本的には、中国学科に所属する3年生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に二回までに、中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な2500語は依然不足していると言える。また、語彙の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、本科目では、2500語程度の常用単語を中心とした、実践的な中国語会話を行っていく。授業では、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に適した単語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。
	漢語会話演習（HSK5級）2	5	○	△		◎		この科目は、HSK（漢語水平考試）筆記5級合格に相当するレベルの上級中国語会話力を身につけることを目標とする。HSK筆記5級は、「2500語程度の常用単語を習得している者を対象」としている。基本的には、中国学科に所属する3年生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に二回までに、中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な2500語は依然不足していると言える。また、語彙の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、本科目では、「漢語会話演習（HSK5級）1」の成果を受けて、2500語程度の常用単語を中心とした、実践的な中国語会話を行っていく。授業では、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に適した単語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科専攻 コミュニケーション系	漢語会話演習（中検2級）1	5	○	△		◎		この科目は、中検（中国語検定試験）2級合格に相当するレベルの上級中国語会話を身につけることを目標とする。中検2級は、具体的な習得単語数といった明白な基準がないが、4000語程度の常用単語や熟語を習得する必要があると考える。基本的には、中国学科に所属する3回生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な単語や熟語は依然不足していると言える。また、単語の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、授業では、熟語を含めた4000語程度の常用単語を中心に、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に応じた単語や熟語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。
	漢語会話演習（中検2級）2	5	○	△		◎		この科目は、中検（中国語検定試験）2級合格に相当するレベルの上級中国語会話を身につけることを目標とする。中検2級は、具体的な習得単語数といった明白な基準がないが、4000語程度の常用単語や熟語を習得する必要があると考える。基本的には、中国学科に所属する3回生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な単語や熟語は依然不足していると言える。また、単語の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、「漢語会話演習（中検2級）1」の成果を受けて、授業では熟語を含めた4000語程度の常用単語を中心に、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に応じた単語や熟語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。
	漢語会話演習（HSK6級）1	5	○	△		◎		この科目は、HSK（漢語水平考試）筆記6級合格に相当するレベルの上級中国語会話を身につけることを目標とする。HSK筆記6級は、「5000語程度の常用単語を習得している者を対象」としている。基本的には、中国学科に所属する3回生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に二次まで、中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な5000語は依然かなり不足していると言える。また、語彙の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、本科目では、5000語程度の常用単語を中心とした実践的な会話を行っていく。授業では、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に応じた単語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。
	漢語会話演習（HSK6級）2	5	○	△		◎		この科目は、HSK（漢語水平考試）筆記6級合格に相当するレベルの上級中国語会話を身につけることを目標とする。HSK筆記6級は、「5000語程度の常用単語を習得している者を対象」としている。基本的には、中国学科に所属する3回生を受講対象者とする。受講生のほとんどは既に二次まで、中級中国語の学習を終え、中国語のほとんどの文法項目を理解し、1200以上の中国語語彙も習得している。しかし、上級会話に必要な5000語は依然かなり不足していると言える。また、語彙の数だけでなく、単語をどのような文脈やタイミングにおいて使うのかという語感も求められる。このような学習状況を鑑み、「漢語会話演習（HSK6級）1」の成果を受けて、本科目では5000語程度の常用単語を中心とした実践的な会話実践を行っていく。授業では、テレビドラマや舞台劇のコンテンツ（台本と映像）を用いて、場面に応じた単語の運用や会話の構成に関する理解を促進するために、より実践的な会話練習を行う。
	漢語表現法演習（演講）1	5	○	○		◎		本科目は中国語でプレゼンテーションを行うことを目的に、スピーチ原稿の作成および発表に係る技術などを学んでいく。これまで学習した文法や単語の知識量は、相当なものである。だが、言いたいことが、なかなか言葉にできない、口から出てこない、ということもよくある。それは何故なのか。原因は種々あろうが、多くの学習者に共通するものの一つに、口にすることに慣れていない、ということが挙げられることであろう。この講義では、ある特定の話題を取り上げ、予習段階で自由に作文したものを、授業で発表してもらう場を持つことで、口にすることに慣れてもらうと同時に、作文中に文法的な誤りがないか、単語の使い方の妥当性はどうか、等もチェックされることで、学習者自身に間違いに気付く力を高めてもらうことを狙っている。履修者のレベルが高い場合などには、文化的側面から、より中国語的、中国人的な表現を取り上げることで、より高度な表現力を身につけられるようにしていく。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学科専攻 コミュニケーション系	漢語表現法演習（演講）2	5	○	○		◎		本科目は「漢語表現法演習（演講）1」を踏まえ、中国語によるプレゼンテーションの技術を向上させることを目的に、より高度なスピーチ原稿の作成および発表に係る技術などを学んで行く。 スピーチ原稿をより実践に近づけるために、本科目は「卒業研究ゼミ」をすでに履修している学生による履修が好ましい。「卒業研究ゼミ」で選んだ研究テーマの内容を簡潔にまとめ、自分の論理的主張を聴き手に理解してもらうために、中国語でどのような手順でどういった表現をするよいか。こういった点について、具体的な指導を通して、より実践的で高度なプレゼンテーション技術を習得していく。
	漢語表現法演習（聴力）1	5	○	○		◎		この講義では、NHKの中国語講座や映画を教材とする。授業内でそれらを視聴し、普段聞きなれた教員や教科書付属のCD以外の中国語を聞くことで耳を慣らしていく。 カリキュラムでは、便宜上、科目名を、聴力、会話、等としてはいるが、聞くだけ、話すだけの勉強で外国語を身につけることができるわけではない。誰かと会って、話しをしているうちは違和感がほとんどないのに、後に何かを読んでもらったり書いてもらったりした時に、思いがけない落差に遭遇することがある。学習の課程で、耳で取り入れた音声情報が正しいかどうか、チェックする（される）機会がなかったためであろう。 この講義では、時間の制約から会話の一部ではあるが、聞いた音声を文字に書くことで、きちんと聞き取れたかを確認する。必要により、文化的な側面からの知識も確認し、有用な表現は暗誦課題に取り込んでいる。
	漢語表現法演習（聴力）2	5	○	○		◎		この講義では、NHKの中国語講座や映画を教材とする。授業内でそれらを視聴したうえで、普段聞きなれた教員や教科書付属のCD以外の中国語を聞くことで耳を慣らしていく。 カリキュラムでは、便宜上、科目名を、聴力、会話、等としてはいるが、聞くだけ、話すだけの勉強で外国語を身につけることができるわけではない。誰かと会って、話しをしているうちは違和感がほとんどないのに、後に何かを読んでもらったり書いてもらったりした時に、思いがけない落差に遭遇することがある。学習の課程で、耳で取り入れた音声情報が正しいかどうか、チェックする（される）機会がなかったためであろう。 「漢語表現法演習（聴力）1」の成果を受けて、この講義では、会話の一部ではあるが、聞いた音声を文字に書くことで、きちんと聞き取れたかを確認する。必要により、文化的な側面からの知識も確認し、有用な表現は暗誦課題に取り込んでいる。
	漢語表現法演習（会話）1	5	○	○		◎		二年間の努力を経て、日常会話程度ができるようになったことであろう。日常会話程度などと言ったが、中級レベルと見ることもできるものであり、その語学力は決して低いものではない。足腰を鍛えることは、運動選手だけではなく、ある言語をマスターする我々にとっても重要である。今後も、反復練習を通して基礎を強固なものにするともに、いわゆる中上級の語彙や表現を少しずつ取り入れた練習を積むことで、豊かな表現力を身につけていきたい。積み上げた練習量が、豊かな表現力に結びついていることを実感し感動することであろう。内容の豊かな会話ができるよう、普段から中国（文化）についての知識を貪欲に吸収してほしい。
	漢語表現法演習（会話）2	5	○	○		◎		二年間の努力を経て、日常会話程度ができるようになったことであろう。日常会話程度などと言ったが、中級レベルと見ることもできるものであり、その語学力は決して低いものではない。足腰を鍛えることは、運動選手だけではなく、ある言語をマスターする我々にとっても重要である。 本講義では、「漢語表現法演習（会話）1」を受けて、反復練習を通じた基礎力をさらに強固なものにしていく。それとともに、いわゆる中上級の語彙や表現を少しずつ取り入れた練習を積むことで、豊かな表現力を身につけていきたい。積み上げた練習量が、豊かな表現力に結びついていることを実感し感動することであろう。内容の豊かな会話ができるよう、普段から中国（文化）についての知識を貪欲に吸収してほしい。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要	
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる		
学科専攻 文献系	漢語現代文献演習（文学）1	5	△	○			◎	この科目では、中国近現代文学のさまざまなジャンル・代表人物・作品を時期順に扱う。主な項目としては、新文化運動時期（胡適・魯迅）、プロレタリア文学運動時期（茅盾・胡風・丁玲）、日中戦争時期（老舍・巴金・周作人・張愛玲）、伝統演劇（京劇・越劇）、話劇（洪深・田漢・曹禺）、映画（夏衍・陽翰笙・鄭君里）などを取り上げていく。 実際の授業に当たっては、上記の諸項目から一つあるいは複数の項目を選び、具体的な作品を取り上げて読む。その際には関連する作品も取り上げるほか、文学作品から映像化された映画や舞台劇のコンテンツも鑑賞する。授業における読解・鑑賞作業を通じて、現代中国語の総合的能力を養成し、同時に各作品の社会的背景等に関する知見を身につけることを目指す。	
	漢語現代文献演習（文学）2	5	△	○			◎	この科目では、中国近現代文学のさまざまなジャンル・代表人物・作品を時期順に扱う。主な項目としては、新文化運動時期（胡適・魯迅）、プロレタリア文学運動時期（茅盾・胡風・丁玲）、日中戦争時期（老舍・巴金・周作人・張愛玲）、伝統演劇（京劇・越劇）、話劇（洪深・田漢・曹禺）、映画（夏衍・陽翰笙・鄭君里）などを取り上げていく。 実際の授業に当たっては、「漢語現代文献演習（文学）1」で取り上げた以外の一つあるいは複数の項目を選び、具体的な作品を取り上げて読む。その際には関連する作品も取り上げるほか、文学作品から映像化された映画や舞台劇のコンテンツも鑑賞する。授業における読解・鑑賞作業を通じて、現代中国語の総合的能力を養成し、同時に各作品の社会的背景等に関する知見を身につけることを目指す。	
	漢語現代文献演習（思想）1	5	△	○				◎	「漢語現代文献演習（思想）」では、現代中国の諸思想と、それらの政治的・社会的・歴史的・文化的背景について学ぶことにより、現代中国の思考方法を知るための端緒をつかむことを目的とする。学修時には、清朝末期から今日までに上梓された文献の中から、時代思潮の形成において重要な働きを果たした（果たしている）と思われる文献を精選する。 「漢語現代文献演習（思想）1」では、清朝末期から中華人民共和国成立の前までに著された文献を取り上げて読む。清末、民国初期に記された文語文献を読む際には、現代中国語に翻訳されたテキストや、あるいは文語文であっても現代中国語に近い文体で記されたテキストを選定する。授業における読解作業を通じて、近現代中国の思想のみならず、現代中国語の読解力をも養成することを目指す。
	漢語現代文献演習（思想）2	5	△	○				◎	「漢語現代文献演習（思想）」では、現代中国の諸思想と、それらの政治的・社会的・歴史的・文化的背景について学ぶことにより、現代中国の思考方法を知るための端緒をつかむことを目的とする。学修時には、清朝末期から今日までに上梓された文献の中から、時代思潮の形成において重要な働きを果たした（果たしている）と思われる文献を精選する。 「漢語現代文献演習（思想）2」では、中華人民共和国の成立時から今日までに著された文献を取り上げて読む。授業における読解作業を通じて、中華人民共和国成立以後の中国思想のみならず、現代中国語の読解力をも養成することを目指す。
	漢語現代文献演習（文化）1	5	△	○				◎	文化は人間の関連する事象一般を指すと云ってよく、したがってそれはかなり広範囲の事象を包含する。「漢語現代文献演習（文化）1」では、具体的な事例を通じて、現代中国のさまざまな文化のなかでも、中国人の日常生活に密着している最も特徴的な内容（主として思想、信仰、民俗等）を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、現代中国人の心、文化的性格、生活態度、審美観を表現する現代文献を中心に読むことになるが、その背景と歴史的伝統に関連する文献も併せて読む場合がある。授業における文献読解演習を通じて、現代中国語の語学力を高めるとともに、現代中国の様々な文化現象に対する知識と理解する能力を身につけることを目指す。
	漢語現代文献演習（文化）2	5	△	○				◎	文化は人間の関連する事象一般を指すと云ってよく、したがってそれはかなり広範囲の事象を包含する。「漢語現代文献演習（文化）2」では、具体的な事例を通じて、現代中国のさまざまな文化のなかでも、中国人の日常生活に密着している最も特徴的なハイライト（主として芸術、映画、サブカルチャー文化財等）を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、現代中国人の心、文化的性格、生活態度、審美観を表現する現代文献を中心に読むことになるが、その背景と歴史的伝統に関連する文献も併せて読む場合がある。授業における文献読解演習を通じて、現代中国語の語学力を高めるとともに、現代中国の様々な文化現象に対する知識と理解する能力を身につけることを目指す。
	漢語現代文献演習（時事）1	5	△	○				◎	この科目では、「時事」という側面から現代中国にアプローチし、中国人の日常生活に密着している衣食住行、風俗、ホットな話題などのいわば「時事文化」を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、さまざまなジャンルから時事文献を選び、代表的な新聞紙やニュースサイトに掲載される記事を中心に読むこととなるが、時事の背景に関連する文献も併せて読む場合がある。授業における文献読解演習を通じて、生の中国語に接し、語学力を高めるとともに、中国を観察し、理解する能力が身につくことを目指す。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要		
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる			
学 科 専 攻	文 献 系									
		漢語現代文献演習（時事）2	5	△	○			◎	この科目では、「時事」という側面から現代中国にアプローチし、中国人の日常生活に密着している文芸、映画、スポーツ、ホットな話題などのいわば「時事文化」を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、さまざまなジャンルから時事文献を選び、代表的な新聞紙やニュースサイトに掲載される記事を中心に読むこととなるが、時事の背景に関連する文献も併せて読む場合がある。授業における文献読解演習を通じて、生の中国語に接し、語学力を高めるとともに、中国を観察し、理解する能力が身につくことを目指す。	
		漢語古典文献演習（文学）1	5			○			◎	中国の古典文学は、清朝の末期まで（20世紀初頭）を下限とすると、詩経以来、二千数百年の歴史を有し、韻文、散文のさまざまなジャンルにわたっている。この科目では、韻文（詩）と散文を二つの柱として、古代から唐代までの知識人たち（士大夫）の文学を取り上げる。主な項目としては、韻文は詩経（四言詩）、楚辞（賦）、五言詩、楽府体、近体詩など、散文は、士大夫の書いた文章が中心となるが、諸子百家（思想家）および史記等の歴史書の文章も、その表現に注目すれば広義の文学の範疇に入れることができるので、これらも取り上げるようになるだろう。 実際の授業に当たっては、上記の諸項目から一つあるいは複数の項目を選び、具体的な作品を取り上げて読む。その際には関連する作品も取り上げる。授業における読解作業を通じて、古典文（文語文）の読解力を養成し、同時に各作品の社会的背景等に関する知見を身につけることを目指す。
		漢語古典文献演習（文学）2	5			○			◎	中国の古典文学は、清朝の末期まで（20世紀初頭）を下限とすると、詩経以来、二千数百年の歴史を有し、韻文、散文のさまざまなジャンルにわたっている。この科目では、散文の内でも特に小説を取り上げる。中国の古典小説は、知識人たち（士大夫）を作者として文言で記されたものから、民間の語り物等を母体とし、宋代以降に口語体（白話文）で書かれた作品までを含む。主な項目としては、志怪小説、伝奇小説、話本、平話、白話長編小説・短篇小説が挙げられる。実際の授業に当たっては、上記の諸項目から一つあるいは複数の項目を選び、具体的な作品を取り上げて読む。その際には関連する作品も取り上げる。授業における読解作業を通じて、古典文（文語文）および白話文の読解力を向上させ、同時に各作品の社会的背景等に関する知見を身につけることを目指す。
		漢語古典文献演習（思想）1	5			○			◎	この科目では、時代的には、春秋戦国、秦漢、魏晉南北朝、隋唐、宋、明、清朝の中ごろまでを扱う。内容については、諸子百家、儒教、老荘、さらには仏教、道教と多岐にわたる。いずれかの時代の特色ある思想家の文章を中心に読解し、思想的特徴をつかむとともに、その思想が現われるにいたった社会情勢、文化の趨勢、政治の動向にも注意を払い、あわせて古典文（文語文）読解能力の向上を目指す。 さらにいわゆる文学や歴史の範疇に入るものでも、その思想性が豊かなものであれば、取り上げる場合がある。 この「漢語古典文献演習（思想）1」では、上記の諸分野のうち、儒教を中心とした文献を扱うけれども、広い意味で儒教に関係する文献や、儒教と反対の立場をとる文献等も含み、できるだけ間口を広くとする。
		漢語古典文献演習（思想）2	5			○			◎	この科目では、時代的には、春秋戦国、秦漢、魏晉南北朝、隋唐、宋、明、清朝の中ごろまでを扱う。内容については、諸子百家、儒教、老荘、さらには仏教、道教と多岐にわたる。いずれかの時代の特色ある思想家の文章を中心に読解し、思想的特徴をつかむとともに、その思想が現われるにいたった社会情勢、文化の趨勢、政治の動向にも注意を払い、あわせて古典文（文語文）読解能力の向上を目指す。 さらにいわゆる文学や歴史の範疇に入るものでも、その思想性が豊かなものであれば、取り上げる場合がある。 この「漢語文献演習（思想）2」では、上記諸分野のうち、儒教以外のものを取り上げる。
								◎	文化は人間の関連する事象一般を指すと言ってよく、したがって、それはかなり広範囲の事象を包含する。この科目では、古典中国のさまざまな文化のなかでも、社会習俗（節句、伝統行事等）と飲食文化（酒、茶、料理等）を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、古代の文献を読むこととなるが、中国に限らず、ある地域の文化は古典時代におけるそれと近現代におけるそれとが断絶しているわけではなく、何らかの継承関係を有して現在の文化はあると言える。したがって、古代の文献以外にも、解説書等の口語文献も併せて読む場合がある。また、中国の文化は日本の文化に大きな影響を与えているので、テーマによっては日本語文献も活用することとなる。 この科目は他の「古典文献演習」といささか異なり、文語文献の読解力の向上が主たる目標ではなく、中国の古典時代のさまざまな文化現象に対する知識と理解の獲得を主眼とし、さらにそれが現代の中国を理解するための一助ともなることを目指すものである。	

区分	科目名	履修開始 セメスター	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
学 科 専 攻	漢語古典文献演習（文化）2	5		○			◎	文化は人間の関連する事象一般を指すとよく、したがって、それはかなり広範囲の事象を包含する。この科目では、古典中国のさまざまな文化のなかでも、社会習俗（冠婚葬祭）、宗教文化(仏教・道教・民間信仰)、環境関連文化（風物・天候・季節・動植物）を中心に学ぶこととする。 実際の授業では、古代の文献を読むことになろうが、中国に限らず、ある地域の文化は古典時代におけるそれと近現代におけるそれとが断絶しているわけではなく、何らかの継承関係を有して現在の文化はあると言える。したがって、古代の文献以外にも、解説書等の口語文献も併せて読む場合がある。また、中国の文化は日本の文化に大きな影響を与えているので、テーマによっては日本語文献も活用することになろう。 この科目は他の「古典文献演習」といささか異なり、文語文献の読解力の向上が主たる目標ではなく、中国の古典時代のさまざまな文化現象に対する知識と理解の獲得を主眼とし、さらにそれが現代の中国を理解するための一助ともなることを目指すものである。
	漢語古典文献演習（散文）1	5		○			◎	この科目では、古代から唐代までの文語体で書かれた散文を中心に取り上げる。文語体の散文は国家と社会の指導層である知識人（士大夫）によって書かれたが、その内容は多岐にわたり、歴史に関するもの、思想に関するもの、書簡文、墓誌銘・祭文から現代のエッセイに当たるものまで多彩である。また、史記や漢書を代表とする歴史書における「伝」は散文としても大変すぐれており、これも取り上げることになるだろう。 実際の授業に当たっては、上記の諸項目から一つあるいは複数の項目を選び、具体的な作品を取り上げて読む。その際には関連する作品も取り上げる。授業における読解作業を通じて、古典文（文語文）の読解力を向上させ、同時に各作品の社会的背景等に関する知見を身につけることを目指す。
	漢語古典文献演習（散文）2	5		○				◎
共 通	高級漢語聴説	5	○	○			◎	中級以上の教材を使用して、応用力の養成を図る。 教科書を読み、内容に即した話題で数分発表できる文章を予習の段階で作成し、授業で発表する。音声教材としてNHKの中国語講座や映画のビデオ等を使用して実際の音声にもできるだけ触れることで、読む、聴く、話す、書く、の能力を総合的に身につけることを目指している。 作文の際、既出の語彙、用法だけで作文すると、なかなか、語彙、用法の幅が広がらないので、各回、必ず未習の単語や用法を二つ（以上）織り込んで作文してもらおう。 ビデオの聴き取り（＝書き取り）、教科書の音読、作文の口頭発表を組み合わせることで会話力の向上にもつなげたい。 中国語を聞いてある程度理解できること、自分の考えをある程度まとめた形で述べられることを目標に進めたい。
	高級漢語閲読（現代）	5	○	○			◎	現代中国語の文体は、中国現代文学の成立とともに確立され、古代の口語体の文章から基本的な構造を継承しながら、著しく発展し変化してきた。この科目は、学科基礎科目である「現代名作導読」が現代文学作品の初歩的読解力の養成を目標の一つとしたのを承けて、現代中国の代表的な文学作品、思想家の著作、評論等を読み、多種多様な文章に触れることを通じてより高度な読解力を養成し、現代中国の文学、思想、文化等について、理解を深めることを目指す。 なお、実際の授業にあたって、現代中国の評論、散文、小説、詩、脚本、新聞記事等を選択し、朗読練習も加え、現代中国に関するコミュニケーション能力を高めるための一助ともなることをめざす。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要	
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる		
学 科 専 攻	高級漢語閲読（古典）	5	△	○			◎	中国の文語体の文章は、恐らく紀元前の早くからそのスタイルが確立されたが、基本的な構造は口語体の文章と変わるものではない。この科目は、学科基礎科目である「古典名作導読」が古典文学作品の初歩的読解力の養成を目標の一つとしたのを承けて、具体的作品を読むことを通じて文語文の基礎的読解力の養成を目指す。それと同時に、具体的作品を読むことを通じて、古典中国の文学、思想、文化等について、理解を深めることを目指す。 なお、上述の通り、文語体は口語体と基本的に変わるものではないので、この科目は文献系・古典を選択した者以外にも、コミュニケーション系、文献系・現代の履修者にも開かれている。ただし、取り上げる作品は、極端に専門的な内容のものは避けることとする。	
	中国語情報処理演習	6	○	◎				情報処理といえば、様々な端末、アプリ、ネットワークにまつわる複雑な作業仕組みというイメージであるが、一般社会のパーソナルユーザーにとって、文字情報を中心とする情報処理は、スマートフォン類ではなくて、PCで行うのが一般的で、中国語の情報処理も同様である。この科目は学科専攻科目として、PC端末を中心に、中国語情報処理能力の養成を目標とし、システム環境、専門用語、文字コード、各種の処理ツールの応用、パーソナルデータベースの構築等を実践的に学ぶこととする。 実際の授業にあたって、中国語環境をベースにして進めるが、日本語と英語とも対照しながら行い、各種の課題を段階的にクリアし、PC環境に対応できる中国語情報処理の基本的な能力を身につけることをめざす。	
	HSK演習（発展）	5	○	◎	○				この科目は、HSK（漢語水平考試）受験対策の授業であり、HSK筆記4級に合格できる総合力を身につけることを目標とする。HSK筆記4級は、「1200語程度の常用単語を習得している者を対象」としている。この授業では、まず所定のテキストを用い、中級中国語の内容を確認するうえ、さらに相応レベルの音声や文章資料及びHSK模擬問題を使用して学習成果を確認する。 HSK（漢語水平考試）受験者にとっては、まずHSK（漢語水平考試）の出題形式や傾向を把握する必要がある。そのうえ、HSK（漢語水平考試）の出題形式に慣れることは重要である。そのため、規定時間内に大量に問題を解く訓練作業は欠かせない。また毎回の訓練後、各自の弱点を随時に見つけ出し、必ずそれを改善していくことは、実際の受験には役に立つ。本科目では、上記のような作業（訓練と改善）を繰り返し行う。
	中国語現地研修B	5	○	○	◎				本科目は、原則的には中国語現地研修Aの履修を経た者を対象とし、佛教大学における2回の事前研修の受講と、吉林大学の国際言語学院における語学を中心とした科目群、および文学・歴史・思想といった科目を受講することにより構成される。事前研修は佛教大学の科目担当者が担い、吉林大学における授業は中国人教員が行う。 渡航前の事前研修と現地での各種授業科目の受講を通して、中国語運用能力と中国語応用力を高め、日常会話を聴き・話すことができる力を養成する。海外生活に必要な知識や、現代中国社会・文化・歴史に対して一定の理解を深めることを目的とする。
	卒業予備ゼミ	6	○	○		◎		◎	この科目では「卒業論文」および「卒業研究」を作成していくために必要な知識の習得と実践練習を行っていく。 「卒業論文」および「卒業研究」のテーマを絞るため、各自の興味に従い、「中国語コミュニケーション系」「文献読解系」（古典・現代）のいずれかのゼミを受講する。 授業では各分野の内容を概観し、各自の研究テーマを模索する。それと同時に、論文やレジュメの作成方法・資料の収集方法・引用や参照の仕方といった研究の基礎的な知識を学んで行く。 これらの学習を通して、簡単なテーマを設定し、レジュメやレポートにまとめる実践練習も行う。
	卒業研究ゼミ1	7	○	○		◎		◎	本科目は「卒業研究」または「卒業論文」を作成することを目的に、研究を完成させるために必要な指導を行っていく。 「卒業研究ゼミ1」では、研究テーマの確定・資料収集・論文の書き方の確認などを中心に指導を行い、中間発表としてレジュメの作成と発表を行う。
	卒業研究ゼミ2	8	○	○		◎		◎	本科目は「卒業研究ゼミ1」を受けて、「卒業研究」または「卒業論文」を完成させるために必要な指導を行っていく。 「卒業研究ゼミ2」では、研究テーマに即した資料の収集と分析および発表を行いつつ、論理的な思考と資料の引用や参照による、「卒業論文」または「卒業研究」を完成させる。 また必要に応じて、研究の総括として、口頭発表や口頭試問を行う。
	卒業論文	8	○	○		◎		◎	各自で設定したテーマについて、資料などを通じた論理的な思考と分析により、2万字程度の「卒業論文」を作成する。
	卒業研究	8	○	○		◎		◎	各自で設定したテーマについて、資料などを通じた論理的な思考と分析により、日本語では1万2千字程度、中国語では4千字程度の「卒業研究」を作成する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
関連	中国語学研究 1	3	◎	○				中国語は、甲骨文の時代から現代まで文字化された長い歴史をもち、かつ日本語や朝鮮語、ベトナム語など周辺地域にも大きな影響を及ぼした言語である。中国では伝統的に形(文字)・音(音韻)・義(訓詁)という三つの柱で研究がされてきた。そして現代は、それ以外の様々な観点で中国語の研究がなされている。本授業では、中国語を歴史的な観点や周辺地域への影響といった事柄で考えていく。
	中国語学研究 2	3	◎	○				現代の中国語は、標準語である普通話の他に多様な方言があり、多くの学習者を有する言語である。本授業では、普通話の運用能力を付けつつ、現代中国語の音声構造、文法のカテゴリー、語彙の意味体系などといったテーマを採りあげ、これらに関連する資料を読む。そして、中国語を科学的に研究するための手法と、日本語や英語など世界の言語における中国語の位置づけなど基礎的理解を目指す。
	異文化理解「中国」1	3	○	◎				中国と一衣帯水の関係にある日本は、古来、多方面において中国から大きな影響を受けてきた。周辺に甚大な影響を与えてきた中国の文化的特質とは一体いかなるものであり、その性質はいつ、どのように形成されたのか。また、周辺の一エリアたる日本との交流はいかなる具合に行われてきたのか。その影響の結果、日本の文化形成においてどのような事象が発生したか。以上の問題について、言語、学問、経済、宗教等の諸要素を踏まえ、歴史的経緯をたどりつつ探っていく。中国という巨大な「異文化」の姿や影響力について考察するにあたり、【異文化理解「中国」1】では、「先秦～明」を学習範囲として設定する。
	異文化理解「中国」2	4	○	◎				中国と一衣帯水の関係にある日本は、古来、多方面において中国から大きな影響を受けてきた。周辺に甚大な影響を与えてきた中国の文化的特質とは一体いかなるものであり、その性質はいつ、どのように形成されたのか。また、周辺の一エリアたる日本との交流はいかなる具合に行われてきたのか。その影響の結果、日本の文化形成においてどのような事象が発生したか。以上の問題について、言語、学問、経済、宗教等の諸要素を踏まえ、歴史的経緯をたどりつつ探っていく。中国という巨大な「異文化」の姿や影響力について考察するにあたり、【異文化理解「中国」2】では、「清～現代中国」を学習範囲として設定する。
	日中比較文化研究 1	3	◎	◎				日本と中国の交流には長い歴史があり、日本は古くは多くを中国から学び取ってきた。しかし清末以降、日中の交流が盛んに行われるようになると、両国の関係性や文化への影響に変化が生じていった。そういった両国の交流史を踏まえ、近現代における日中文化の比較を行っていく。 この講義では清末から近代を中心に概観していき、具体的な文献を利用しながら、日中両国の文化の差異と日中両国の交流について理解を促進する。
	日中比較文化研究 2	3	◎	◎				日本と中国の交流には長い歴史があり、日本は古くは多くを中国から学び取ってきた。しかし清末以降、日中の交流が盛んに行われるようになると、両国の関係性や文化への影響に変化が生じていった。そういった両国の交流史を踏まえ、近現代における日中文化の比較を行っていく。 この講義では近代から現代(当代)に亘る日中の交流の歴史に関わる文献を用い、両国の文化の差異と交流の歴史について理解を促進する。
	中国文化研究 1	3	○	◎				文化とは、人間が社会のメンバーとして獲得する振る舞いの総体のことである。そして、社会の大小を問わず、それぞれに固有の文化があるとされ、文化は、芸術に代表されるように高度に洗練されたものから、個々人の振る舞いにあらわれる行動様式、あるいは社会に共有されている価値観などさまざまな概念が含まれる。 中国は長い歴史と広大な地域、そして多様な文化を有する。そして周辺の国や地域からの影響を受け、また周辺地域に多大な影響を及ぼしつつ変容してきた。この授業は、中国の言語、文学、思想、民俗・習慣などについて、その歴史的な変遷や他地域への影響を、担当教員の専門分野を中心に学ぶ。
	中国文化研究 2	3	○	◎				文化とは、人間が社会のメンバーとして獲得する振る舞いの総体のことである。そして、社会の大小を問わず、それぞれに固有の文化があるとされ、文化は、芸術に代表されるように高度に洗練されたものから、個々人の振る舞いにあらわれる行動様式、あるいは社会に共有されている価値観などさまざまな概念が含まれる。 この授業は、中国文化研究1で学んだ歴史的な経緯を踏まえ、中国の言語、文学、思想、民俗・習慣などについて、その現代における諸相を、担当教員の専門分野を中心に学ぶ。そして、中国の言語文化に関わる事象を通じて、現代における中国の人々の考え方、生き方、価値観、信仰、芸術に関連する事柄を理解する。
	東北アジア史	4		○				日本をふくむ東北アジア(中国大陸や朝鮮半島、および日本列島など)は、古来より密接な関係をもって歴史を歩んできた。本講義では、東北アジアにおける諸国・諸地域の歴史について取り上げ、その歴史的関連性について学修する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
関連	東洋文化史	3	○	○				日本の文化は古くから、東洋、中でも中国・朝鮮を中心とする東アジアの文化の影響を受けている。本科目では、東アジアを中心とする東洋文化のありようを、さまざまな観点から概観し、その歴史的背景を学ぶことによって、その基礎的な知識を修得するとともに、日本文化との関連性も理解する。
	西洋文化史	4	○	○				日本社会がヨーロッパ文化の影響を受け、その価値観や生活習慣などを共有するようになって久しい。そこで、本講義では、前提となる欧米文化のありようをさまざまな観点から概観し、その歴史的背景を学ぶことによって、西洋文化についての基本的な知識を修得するとともに、その多様性についての理解を深める。
	東洋史特講（古代）1	3		○				古代の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	東洋史特講（古代）2	4		○				古代の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	東洋史特講（中世・近世）1	3		○				中世・近世の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	東洋史特講（中世・近世）2	4		○				中世・近世の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	東洋史特講（近代・現代）1	3		○				近代・現代の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	東洋史特講（近代・現代）2	4		○				近代・現代の東アジアについて、特定の時代や地域を取り上げ、テーマを設定し、さまざまな視点から具体的な歴史事象を考察し論じる。本講義を通して、取り上げられた時代や社会についての基本的な知識を修得するとともに、その時代や社会の特質を理解し、研究の視角や方法論に対する知見も広める。
	書道1	1		○				楷書の実習。楷書を学ぶことによって書道の基本的な知識・技術を身につける。中学校の書写・高等学校の書道の指導ができるような力をつけることが到達目標。楷書の用筆法・結構法等を学び、技法を高めていく。古典の臨書を中心に、太字・細字を数多く学習する。さらには、書の表現時における精神的な高まり、意識の集中力を養い、その歴史・文化の学習を通して「書く」という行為の深化を図る。
	書道2	2		○				行書・草書の実習。行書・草書を学ぶことによって書道の基本的な知識・技術を身につけ、あわせて書の実用性と芸術性を学習する。中学校の書写・高等学校の書道の指導ができるような力をつけることが到達目標。行書・草書の用筆法、特に楷書との違いを理解し、筆順の変化等の解説を聞くことで、行書・草書の特徴をよく把握する。古典の臨書を中心に太字・細字を数多く学習する。半紙の指導を中心として受けつつ、画仙紙（半切）作品にも挑戦し、書を学ぶ楽しさを味わう講義でもある。
	漢文学1	3		○				日本古典文学の基礎を形作る「漢文」を理解するための漢文法を講ずる。漢文特有の文型の習得を通じて、漢文訓読の基礎学力を養う。具体的な内容として、いわゆる漢文の文法的な構造について、先人の発明した訓読の特徴を理解するため、日本語の文法と漢文法(古代中国語文法)との違いを克服する返読の発生の必然性を、分かり易く説明し、元来は全く体系を異にする古代中国語との触れ合いを通じ、先人がいかに苦勞して中国語を日本語化し、同時に日本語の表記法を確立させていったのか、日本文化成立の根幹に関わる問題を提示する。
	漢文学2	4		○				漢文学は、古来日本人が中国文化を受容し、殊にその表記法である漢字を日本語の表記に転用し、加えて、古代中国語文献に対する深い理解により、いわゆる漢文を表記することによって成立した。ところが、日本語と漢文の間には、体系を異にする二国間言語における返読の問題が発生した。漢文学を具体的に理解するには、その返読という現象をしっかりと学ぶ必要がある。そこで、本授業においては、漢文法の体系を踏まえ、漢文を読解する鍵となる、返読文字、再読文字の理解に加え、否定、疑問、反語、使役、仮定等の基本句形を習得することにより、漢文訓読能力を身につける。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
関連	漢文講読	2		○				漢文とは、中国の古典の文章のことだが、日本文学において漢文と言う時には、まだ文字を持たなかった有史以前の日本人が、進んだ大陸文化を学び始めて以来のそれを指す。日本人は漢文を学ぶことによりカナを発明し、漢字と仮名を用いて日本語を表記することを可能にした。ところが、日本語と中国語とは文法構造などが異なるため、私たちの祖先は、漢文を読むための様々な苦心を重ねた。返り点や送り仮名などの発明がそれである。今日の日本語表記は、その上で可能となったものだが、当科目では、様々な例文を通じて、漢文訓読法を習得することを目的とする。同時に、仮名と漢字の関係等を深く理解することにより、日本語と日本文化の成り立ちを考えたい。
	仏教と文学	3		○				日本文学の作品を取り上げ、その作品に現れる仏教思想や、また文学作品内の仏教思想から見た日本仏教の特徴について講義する。
	言語学概論 1	3	○	○				ヒトは<ことば>によって思考し、コミュニケーションをする。ヒトのことばと動物の伝達とを観察して、ヒトのことばの特性を考える。次に、言語の修得について観察する。そうして獲得された言語が、どのような形をもっているのかを、音韻・文字・語彙・文法について考察する。そして、言語の構造・発音記号の役割などを考える。次に、ことばを発する際の心の動きを考え、実際に発されたことばが、言語場において、どのような意味をもち得るかを考える。
	言語学概論 2	4	○	○				ヒトはひとつの言語共同体の中に生まれる。母語と第一言語、方言と標準語・共通語など、社会的な言語の変種について考察する。次に、時間的な言語の変化について考察する。二つ以上の言語が接触した場合に起こる言語借用や言語連合、あるいは、二言語使用や言語紛争の実態を知り、言語政策について考える。最後に、さまざまな要因によって、時間的にも空間的にも変化してきた言語を、系統や類型によって分類し、それぞれの言語と文化の関わりをさぐる。
	日本語学概論 1	3	○	○				日本語の基礎的な事柄について理解を深める。音声と音韻、文字と表記、意味と語彙などを学ぶ。
	日本語学概論 2	4	○	○				文法、文体、方言・共通語について学ぶ。また、上代・中古・中世・近世・近代・現代の日本語の歴史を概観する。
	日本語文法 1	1	○	○				高校までの「国語」の授業の中で扱われる「文語文法」。これを身につけていないと、古文を自力で正確に読むことは難しいのだが、意外と身につけていない学生は多い。そこで、本授業では、毎回、まず平安朝の文法を中心とした文語文法の基礎についての講義があり、そのあとで練習問題を解くことにより、文語文法の定着を図る。なお、この授業で扱う文語文法の項目は、動詞、形容詞、形容動詞を中心とするが、更に、名詞、連体詞、副詞、接続詞、感動詞にも触れる。
	日本語文法 2	2	○	○				高校までの「国語」の授業の中で扱われる「文語文法」。これを身につけていないと、古文を自力で正確に読むことは難しいのだが、意外と身につけていない学生は多い。そこで、本授業では、毎回、まず平安朝の文法を中心とした文語文法の基礎についての講義があり、そのあとで練習問題を解くことにより、文語文法の定着を図る。なお、この授業で扱う文語文法の項目は、付属語（助詞、助動詞）、敬語、修辭法（枕詞、序詞、掛詞）などである。
	日本文学史 1	3		○				古代から、現代に至る、日本文学の流れを視野に入れつつ、この科目では、上代から中古までの日本文学史について、ジャンルの展開、各作品、作家、時代思潮と文学の関係をとりあげて理解を深める。具体的には、古伝承、記紀風土記、歌謡・和歌文学、説話文学、日本漢文学、物語文学、日記文学、随筆、仏教文学、の流れと相互交流、代表的作品、作家について、歴史的・文化的背景、社会と作家自身の問題などとの関係に留意して、体系的に、かつ文学が生き物であることを感得できるように、講義する。
	日本文学史 2	4		○				日本文学における近代から現代についての文学史を中心に、様々な分野にわたって具体的な作品をとりあげて、その成立・書誌・諸本・表現・主題・受容などについて講義する。それぞれの作家および作品についての基礎的な知識を学びながら、日本の近代文学が成立した歴史的背景・政治的背景・思想的背景・文化的背景などを考慮してその変遷を理解するのが目標である。
	文学概論 1	3		○				文学とはどのようなものかを言語の発生とその展開を視野に入れて理解させる。その上で日本語の持つ表現の普遍性と特殊性などを考察する。また、現代の文学の状況についても、社会や教育、さまざまなメディアを論じた文章を通して、文学の意義と課題を明らかにする。
	文学概論 2	4	○	○				比較文学的な視野をも含め、日本文学の特色を言語や歴史、風土とのかかわりを通して理解することをめざす。古代以来の中国文化との濃厚な関係、近代における急速な西欧化、をはじめとして、海外の文化との関係において形成、展開した日本語や日本語の文学の特質を探求する。また、今日の文学の現代を、メディア、映像、音楽、マンガ、教育などのさまざまな場面において考察し、文学の意義と課題について認識することをめざす。毎回の授業の主題に応じた課題を学生に与え、その課題の発表・提出を通して理解を深める活動も適宜実践する。

区分	科目名	履修開始 セメスター	1	2	3	4	5	科目概要
			中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる	中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている	海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる	コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている	文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる	
関連	中国仏教史	1	○	○				仏教が中国に伝来して、中国人社会にどのように受容・展開されていったのかを概説していく。①後漢・三国 ②兩晋 ③南北朝 ④隋・唐 ⑤五代・宋 ⑥元・明・清 ⑦現代、について概説する。
	浄土教史	3	○	○				インドにおける浄土教の発生から、中国・日本における歴史的展開について概説する。なお、日本については法然以前までを扱う。